

近年の歯科技工はデジタル化が進み画像処理システムやコンピューター加工技術がますます進化している。デンチャーも CAD/CAM などによりデジタル化しつつある。だが決してコンピューターソフトがすべて製作するわけではなく正しい知識を持った歯科技工士のコントロールによって設計され形にする。デンチャーの正しい製作法を学ばなければ患者さんを満足するデンチャーはできない。

## 1.心でつくる臨床総義歯の神髄

無くなってしまった口腔内の審美と機能の回復を目指し「噛む」ことだけではなく、模型の上の適合に合わせて口腔内に調和させるための知識と技術を知ること。解剖学的ランドマークを活用した模型設計の大切さや時短を考え調整量の少ない人工歯の選択や失敗の少ない人工歯排列法、発音や嚥下運動を考えた歯肉形成など、基礎的な臨床総義歯から製作法を解説したい。

## 2.デンチャーワールド ～患者の QOL 向上を目指し、素材とテクニックを駆使した義歯～

保険で良い物が作れないとは言わないが材料や時間の問題を考えると限界がある。素材もテクニックも日々進化しています。最良を考え適正な材料やテクニックを選ぶことによりもっと様々な質の向上したデンチャーを製作できるはずである。

私は歯科技工士になり故河邊清治先生の歯科医院に務めていた頃から、現在に至るまで 44 年、患者さんの QOL 向上を目指したより良い義歯を製作するために保険の枠にとらわれずに取り組んできた。

パーシャルデンチャーは審美と機能を両立するための修理加工のできる PMMA による「弾性レジックラスデンチャー」や目的に応じたレイヤーデンチャー（積層義歯）の中から「CP デンチャー®」、「カラーレイヤーデンチャー」、「シリコンレイヤーデンチャー」など。目標を明確にし、患者さんの QOL 向上を目指し、素材とテクニックを駆使したデンチャーを視覚的に分かりやすいように写真からシンプルに解説したい。

歯科技工士 戸田篤